

## 第46回日本ストーマ連絡協議会 議事録

日時：2020年11月17日(火)17：30－18：30

場所：コロナ禍により、zoomでの開催

進行：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 当番幹事 株式会社 ホリスター

議事：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 副当番幹事 コロプラス株式会社

参加(敬称略)：JSSCR－前田耕太郎、幸田圭史、後藤百万、靱山こずえ

JWOCM－田中秀子

JOA－谷口良雄、木下静男、川村正司

OAS－秋葉晃子、中村早苗(進行)、内藤寿真子、シディキ佐衣子(議事)

合計12名

### 1. 活動報告

#### 1) JSSCRより

幸田：先回の7月のZoom会議に続いて今回もZoomで実施となったが、その間、熊本の人吉地区の水害があったが、その件はまた靱山さんからシェアする。

靱山：学会ホームページに、以下を掲載するべく準備をしている。

①13ブロックの代表、および各都道府県代表・副代表の名前と連絡網

②熊本・岡山の水害時の活動報告

③東京・神奈川の災害対策

また厚生労働省が調査を行っており、JOAへの聞き取りと共に、各自治体に給付制度の聞き取りを行っているため、備蓄の実態も質問項目に加えるよう要請した。結果は今後共有していく。

#### 2) JWOCMより

田中：来年の第30回の日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会は7/3. 4に真田先生を会長として、東京の京王プラザにて開催する。同時にAPETNAの開催を日本で行っていなかったため、第9回APETNAも同時開催となる。海外からの来客は難しいであろうため、事前録画によるオンライン開催を検討している。

理事会、および10月の下部尿路症状の排尿ケア講習会もオンラインで開催し、講習会には500名以上が参加した。

#### 3) JOAより

谷口：①オストメイトの生活実態調査を、進藤先生、松原先生と相談しながら、コロプラスのサポートを受けて準備している。ケアの実態と、前回から含めている災害対策への意識、自治体給付についての項目を盛り込んでおり、厚生労働省の聞き取りと重なるようだが、JOA独自の質問項目もあるので、実施する方向である。

②また日本身体障害者団体連合会を通して提出している要望書には、災害対策として、災害時の避難所にオストメイト対応スペースや装具が不可欠である旨も要望。厚生労働省の条例には「生活必需品は無償提供」とあるが、提供できないところについては、代わりに各メーカーが無償提供しており、このメーカーによるサポート分は国として負担するよう求めていくことを考えている。

③12/23にインドでASPOAが開催され、各国のレポートを3分ほどするため、日本からは山本先生がオンラインで参加予定。

④全国大会は今年中止されたが、6/12. 13に山口で開催予定の来年の全国大会に関しても未決定。例年はこの時期に医療関係者等への講演依頼なども行っているが、来年1月末に開催の有無を決定し、3月の会報誌にて報告予定。実施の場合も3密を避けるため、展示や式典は中止して身内のみでの開催となる

- 前田： ②に関しては原則が無償提供としているので、「提供できない地域について」と分ける表現を避け、各社からの無償提供品および運送費の負担も含めて、基本、国への負担を求めた方がよい。
- 谷口： 背景として、昨年厚生労働省を訪問し、オストメイトの災害時対策や日常生活実態調査の報告をしたところ、本来は国のサポートが整うまでのセーフティネットのサポートであったにも拘わらず、厚生労働省から「メーカーからの無償提供があるなら問題ないじゃないか」という主旨の発言があったため、メーカーからの無償提供分について今回要望を出している。身体障害者の補装具に関しては3年に1回、地域間格差がないかの聞き取りがある中、オストメイトへの対応が手薄であることを指摘した。
- 靱山： 地域間格差に関しては厚生労働省からアクションを取ってもらうのが望ましい。自治体によっては、給付後に災害が起きた場合、購入済の6ヶ月分を補償するところもある。
- 谷口： 災害対策については、きちんと学会とすり合わせが必要ではないかと考えている。

#### 4) OASより

- 中村： ①災害救助法第11報に基づき、全国で9県98市町村にそれぞれ災害救助法が適用されたが、無償提供をさせていただいたエリアは熊本にお住いの方のみであった。
- ②総額は319,890円と、去年の台風災害と同レベルの補償があった。
- ③首都圏で大規模災害が発生した際には、更なる補償が予想される
- 前田： メーカー各社に合意をもらい、今回このOASのサポート状況を示す資料を学会ホームページに掲載してはどうか？
- 中村： 各社に合意をもらい、資料を提出する。
- 靱山： 災害対策委員会では、藤枝市立総合病院の中村院長が地域の備蓄が進まないことを受けて預かり保管を行政に働きかけ、実施したケースがある。今後は全国にも働きかけを行う。JOAとも協働していきたい。
- 木下： 千葉県では千葉市を含む8市に、預かり保管を要請して実施してもらったが、預ける人が少ないという実態がある。そのため、千葉県のホームページにも掲載されているが、預かり保管とは別に、避難所への備蓄なども依頼し、現在船橋市を含む4市で実施してもらっている。協会への入会率は5%以下のため、オストメイト全体をカバーできないが、学会にも協力してほしい。
- 靱山： 預ける人が少ないのは、病院でも説明が足りていないことも理由かと思う。学会でも働きかけていきたいので、谷口会長に別途メールで連絡をする。
- 谷口： 預けている個人は20%にも満たない。また自身が使っている装具でないと、支給されても受け取らない人もいるので、靱山さんには是非話を聞いてほしい。
- 靱山： 医療機器販売業協会にも働きかけを行うなど、OASにも参加してもらい、協会との意見交換の場を設けたい。

次回：2021年3月30日(火) 17:30～ zoomにて開催